

150年間の思いを一つに 元街っ子
~つなげよう! まちへ 世界へ 未来へ~

令和6年1月12日



横浜市立元街小学校



令和5年度 学校だより 1月号

Tel 681-7810 Fax 662-5842

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motomachi/>

まさかへの備え

校長 工藤雅彦

新年を迎えました。冬季休業中も本校の子どもたちの大きな事件事故の連絡はありませんでした。しかし、元日に最大震度7の能登半島地震が発生し、今も行方の分からない方々も多く、200人以上の方が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。また、余震が引き続き発生しており、3万人以上の方々が不自由な生活を送っています。被災された方々にお見舞い申し上げます。さらに、2日にも身近な羽田空港の滑走路上で大型ジェット旅客機と海保機が衝突し、両機ともに炎上する大事故が起きました。新年の1日・2日と大変大きな災害が発生するという2024年の幕開けとなりました。

能登半島地震では、家屋や道路の倒壊、土砂崩れ、大津波、火災、液状化、インフラの混乱など、まさに地震発生で起こりうる全ての災害が発生しました。先日、加賀町消防団出初式でも中消防署長が「まさか元旦に起きるとは。自然災害は人間の都合など時を選ばない。」と話されておりました。近年では東日本大震災や熊本地震など、その怖さをニュース映像で目の当たりにし、防災対策など頭では十分に理解しているつもりでした。しかし、自分事として準備できているか、まさかの想定ができているのかと、自分のまさかの気持ちの隙間を認識しました。昨今世界各地で大きな地震や火山活動が起こっています。首都圏でのM7クラスの直下型地震は30年以内に70%の確率で発生すると言われています。30年以内ということは、明日発生してもおかしくはありません。降水確率が70%なら洗濯物は外には干さないし、傘を持ち歩く人もいることでしょう。そして、現在の子どもたちが生きている間に経験することになります。子どもたちの安全を確保することや困難を乗り越える力を育むことの責務や当たり前の日々が当たり前でできることの尊さを感じずにはられません。

元街小学校では年間4回の地震の避難訓練がありますが、職員がそろっていないとき、放送が使えないとき、雨が降っているときなど、まさかの事態に備えて様々な訓練をしておくことの大切さを改めて感じます。今後も全職員で災害対応等について確認し、より現実的なものへの改善を図っていきたいと思います。そして、子どもたちには自助・共助の大切さを伝えていきたいと思っています。訓練の体験を通し、自分の命は自分で守ることを繰り返し指導していきます。また、人の痛みが分かり寄り添えることや人のために行動できることなど、困難な状況のときこそ人とのつながりが何より大切です。互いに励まし合い、助け合い、笑い合えるような人間関係こそが人を支えているのだと思います。人を思い、人と積極的にかかわり、人と一緒に行動していくことができる力を身に付けさせていかなければならないと感じます。さらに子どもたちのご家庭と地域にいる時間は、学校にいるとき以上に長いです。是非ご家庭での防災対策や備えをしておくこともお願いいたします。学校も普段からまちや地域の方々としっかりと結びつき、子どもたちが積極的にかかわり合えるよう、声を掛けていきたいと思っています。

大型ジェット旅客機と海保機の衝突炎上事故は、不幸な出来事でしたが、旅客機の乗客・乗員379人が全員脱出できたことについて「奇跡」と報道している国もあります。客室乗務員や機長らの的確な判断や指示が「日々の地道な訓練」により実現されたことを感じる出来事でもありました。